

2025 年 12 月 1 日

各 位

会社名 名港海運株式会社
代表者名 代表取締役社長 社長執行役員 高橋 広
(コード番号 9357 名証メイン)
問合せ先 取締役 専務執行役員 三谷 正芳
(TEL 052-661-8244)

固定資産の取得に関するお知らせ

当社は、名古屋港管理組合が主催する飛島ふ頭第2貯木場埋立地E区画売却募集に応募し、購入予定者に選定され、土地売買契約を締結いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 取得の目的

当社グループは、中期経営計画「MX2029」において、「名古屋港における事業基盤の強化」を事業戦略の一つとして掲げています。名古屋港の主要物流拠点である飛島ふ頭内に物流センターおよびヤード（以下「新施設」という）を新設するための用地を取得することで企業価値向上を図ってまいります。

2. 本投資がもたらす効果

①「物流 2024 年問題」対策と競争力強化

新施設はコンテナターミナルに近接するため、輸送動線の短縮と作業効率の向上が実現します。さらに、バース予約・受付システムや最新鋭の設備の導入により作業の自動化・省人化を推進し、ドライバーの負担軽減や待機時間の削減といった「物流 2024 年問題」に対応しつつ、持続可能なオペレーション体制を構築します。

②お客様の拠点集約ニーズへの対応とサプライチェーン最適化

将来的なドライバー不足を見据え、お客様の間で拠点集約による輸送合理化ニーズが高まっています。輸出入貨物を取り扱うキャパシティを増強し、複数拠点間の輸送削減等の効率化を通じて、サプライチェーン最適化を実現します。

③老朽化施設の代替と事業強靱化

名古屋港における持続的な事業継続に向け、老朽化した既存施設の機能を新施設に集約・移転します。社員および保管貨物の安全性向上を図るとともに、大規模施設への集約によるスケールメリットを活かし、人・機器等のリソース効率を最大化します。

④名古屋港港湾計画に沿った機能最適化

当社が金城ふ頭のヤードで取り扱うアルミインゴットを新施設に移転し、その跡地は輸出入自動車を取り扱うモータープールとして活用することを計画しています。名古屋港が目指す「コンテナは飛島ふ頭、完成自動車は金城ふ頭」という名古屋港港湾計画に沿って、当社機能を最適化します。

3. 取得用地の概要

所在地：愛知県海部郡飛島村西浜 28-5、30-5

土地面積：71,639.13 m²

取得価格：55 億円

資金計画：自己資金および金融機関からの借入

引渡日：2025 年 12 月以降



4. 今後の見通し

現時点において、2026 年 3 月期の連結業績に与える影響は軽微であると判断しておりますが、今後開示すべき事項が生じた場合には、速やかに開示いたします。

以 上

（ご参考）

新施設完成イメージは以下のとおりであり、規模、構造等の詳細につきましては、決定次第、改めてお知らせいたします。

